【平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果】

平成28年４月に実施した「全国学力・学習状況調査」の松田町立小・中学校の結果をまとめました。

「平成28年度全国学力・学習状況調査」は、全国の小学校６年生、中学校３年生を対象に、国語、算数・数学の２教科で実施されました。出題範囲は前学年までの指導事項を原則とし、主として知識に関する問題（A）と、主として活用に関する問題（B）が出題されました。また、生活習慣や学習意欲、家庭学習などに関する質問紙調査も行われました。

【問い合わせ】教育課　学校教育係　☎（83）７０２３

【調査の内容】

（１）学習調査（国語、算数・数学）

《主として「知識」に関する問題（A）》	《主として「活用」に関する問題（B）》
・身に付けておかなければ後の学年などの学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能などを実生活のさまざまな場面に活用する力 ・さまざまな問題解決のための構想を立て実践し評価、改善する力

（２）質問紙調査

《児童生徒に対する調査》	《学校に対する調査》
・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面などに関する調査	・指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備などの状況などに関する調査

【１】学習調査（国語、算数・数学）の結果

◆小学校６年生

全教科において、県公立学校の平均正答率と同程度でした。（＋－５％以内）

○国語A

目的や意図に応じて、適切な語句や文章を選択したり、図や表と文章を関係付けて読んだりすることについては良好でした。一方、学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読むことや書くこと、また、ローマ字を書くことや読むことについて課題がありました。

○国語B

目的に応じた質問の仕方や質問の意図を捉えることについて、また、問われていることに対しての説明として適切なものを選択することは良好でした。一方、字数制限などの条件に合わせながら、文章の内容を的確に捉え、まとめながら書くことに課題がありました。

○算数A

小数や分数の乗法・除法の計算、単位量当たりの大きさの求め方については良好でした。基礎的・基本的な計算力が身に付いています。一方、割合の意味についての理解は良好でしたが、割合を百分率を用いた図に表すことには課題がありました。

○算数B

乗法や除法の式の意味を理解することや、単位量当たりの大きさを求めるために、適切な情報を選択することは良好でした。また、正方形に内接する円のかき方は理解していますが、図形を構成する角の大きさを基に、多角形を並べてできる形を判断することに課題がありました。

昨年度は設問によって、無回答率の高い問題があり、粘り強く問題に取り組むことに課題がありましたが、今年度、算数Bでは全設問については、昨年度から改善されてきました。

◆中学校３年生

国語A・Bは、県公立学校の平均正答率と同程度（＋－５％以内）でした。

数学A・Bは、県公立学校の平均正答率よりやや低いという結果でした。

○国語A

文章中に出てくる登場人物の言動の意味を捉えながら内容を理解することや、相手や場面に応じた言葉遣いについては良好でした。一方、パンフレットなどにふさわしい見出しを付けることや、本の奥付の役割を理解し、活用する部分に課題がありました。

○国語B

パンフレットなどから必要な情報を読み取り、問われていることに対して適切なものを選択することは良好でした。一方、字数制限や形式などの条件に合わせながら、文章の内容を的確に捉え、まとめながら書くことに課題がありました。

○数学A

分数と小数の乗法計算や、対称移動した図形をかくことについては良好でした。正負の数を実際の場面に結び付けて理解することや、具体的な場面において比例式をつくること、また、具体的な事象における二つの数量から反比例の関係を見出すことに課題がありました。表から最頻値を読み取ることや近似値と誤差の意味の理解についても課題がありました。

○数学B

関数の関係を表す表からXの値に対応するYの値を求めることは良好でしたが、一次関数の問題を作る場面において、必要な条件を判断していくことや、一次関数のグラフにおいて、グラフの傾きが何を表しているのか理解することに課題がありました。

また、ヒストグラムなどのグラフや代表値を用いて資料の傾向を捉えることや資料から必要な情報を選択し、相対度数を求める式を考えることにも課題がありました。設問によっては、無解答率の高い問題もあり、粘り強く問題に取り組むことについて継続した指導が必要であると考えます。

【２】質問紙調査の結果（全国や神奈川県との比較）

◆小学校６年生

生活習慣

「早ね・早おき・朝ご飯・朝うんち」を推進している生活習慣ですが、概ね全国や県と同じ傾向にあります。中でも、早ねに関して、10時前までに寝る割合は全国や県に比べて高く、比較的、生活リズムが安定していることが伺えます。

コミュニケーション能力

友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意な割合が全国や県よりも高い傾向にあります。５年生までに、自分の考えが相手に伝わるように、話の組み立て方を工夫して発表していたという割合が全国や県より高く、学校の授業や行事の中で取り組んできたこれまでの成果が出ていると考えられます。

家庭学習・家庭生活

家庭で、学校の授業の予習・復習を行っている割合が全国や県よりも高く、家庭での学習が習慣化されていることが伺えます。また、１日あたり１時間以上学習している割合も全国や県よりも高い傾向にあります。昨年度、全国や県よりも割合が高かった携帯電話やスマートフォンの長時間使用（１日１時間以上）については、今年度は全国や県と比べても同程度となり、比較的解消されつつあります。

しかし、依然として、ゲームの長時間（１日１時間以上）使用は全国や県よりも高い傾向にあり、今後も継続して改善していく取り組みが必要と考えます。

自己肯定感

自分に良いところがあると考える割合や、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦するという割合が全国や県よりも高い傾向にあります。今後、自己肯定感をより一層高め、自己有用感を感じるまでに高めていくことが必要ではないかと考えます。

地域参加

地域の行事への参加する割合が全国や県に比べて高く、地域との深い関わりを持ち、地域の中で育っていることが伺えます。一方で、新聞を読んでいる割合や、テレビやインターネットでニュースを見ている割合が低く、社会で起きている出来事への関心を高めていくことが必要ではないかと考えます。

◆中学校３年生

生活習慣

生活習慣に関しては、概ね全国や県と同じ傾向にあり、比較的、生活リズムが安定していると思われます。しかし、０時以降に就寝している生徒の割合が全体の四分の一程度であり、この点については改善していく必要があると考えます。

コミュニケーション能力

友だちの話や意見を最後まで聴くことができる割合は、ほぼ全国や県と同程度です。授業で自分の考えを説明したり、文章に書いたりすることは難しくないと考えている生徒の割合が高い一方で、友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意ではないという生徒も多く、今後、自分の考えや意見を説明できる力を身に付けていく学習が、より一層必要ではないかと考えます。

家庭学習・家庭生活

家庭で、学校の授業の予習・復習を行っている割合、また、１日あたり１時間以上学習している割合が全国や県よりも低い傾向にあります。今後、１日の生活の中で、家庭学習の時間を確保していく必要性があると考えます。

家庭生活においては、テレビやゲームの時間（１時間以上）、携帯電話やスマートフォンを使用している時間（１時間以上）の割合が全国や県より高い傾向にあります。この点が就寝時刻の遅さや、家庭学習の時間を十分に確保できない要因の一つになっていると考えられるので、今後改善していく必要性があります。

自己肯定感

自分に良いところがあると考える割合や、将来の夢や目標をもっているという割合が全国や県よりも低い傾向にあります。また、難しいことでも失敗を恐れないで挑戦するという割合も低い傾向にあり、達成感を感じるような活動などを通し、生徒の自己肯定感を高めていくことが課題であると考えます。

地域参加

社会で起きている出来事への関心や、ボランティア活動に参加したことがあると答えている生徒の割合は全国や県と同程度です。また、昨年度と同様で、地域の行事への参加の割合が全国や県に比べて高く、地域との深い関わりを持ち、地域の中で育っていることが伺えます。

今回の調査結果から

◎各学校においても調査結果について分析し、課題点を見つけ、その克服に向けた取り組みを教師間で共有していきます。

◎児童生徒の学習に対する関心・意欲を一層高め、分かり合う喜びのある授業づくりを目指していきます。

◎次期学習指導要領のキーワードである「アクティブ・ラーニング」を活用し、児童・生徒に、自分の考えや意見を説明できる力を高めていきます。

◎児童生徒の自己肯定感・自己有用感を高めていけるよう、今後も学校、家庭、地域との連携を進めながら、児童・生徒の成長を見届けていきます。